

2016年10月18日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
1番5号 PMO 日本橋江戸通  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 TEL.03-3664-5697  
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

## 輸送機器用潤滑油、発電機用エンジン油、工業用潤滑油、グリース/固体潤滑剤など 潤滑剤関連の世界市場を調査

2025年予測（2015年比）

潤滑剤の世界市場 9兆1,224億円（15.3%増）～輸送機器用潤滑油、工業用潤滑油が拡大をけん引  
ガソリン車用エンジン油（オイル）の世界市場 1兆9,888億円（9.7%増）

～中国を中心としたアジア地域の乗用車需要の増加により市場は拡大

グリース/固体潤滑剤の世界市場 4,780億円（7.0%増）～自動車用など高機能化で単価上昇

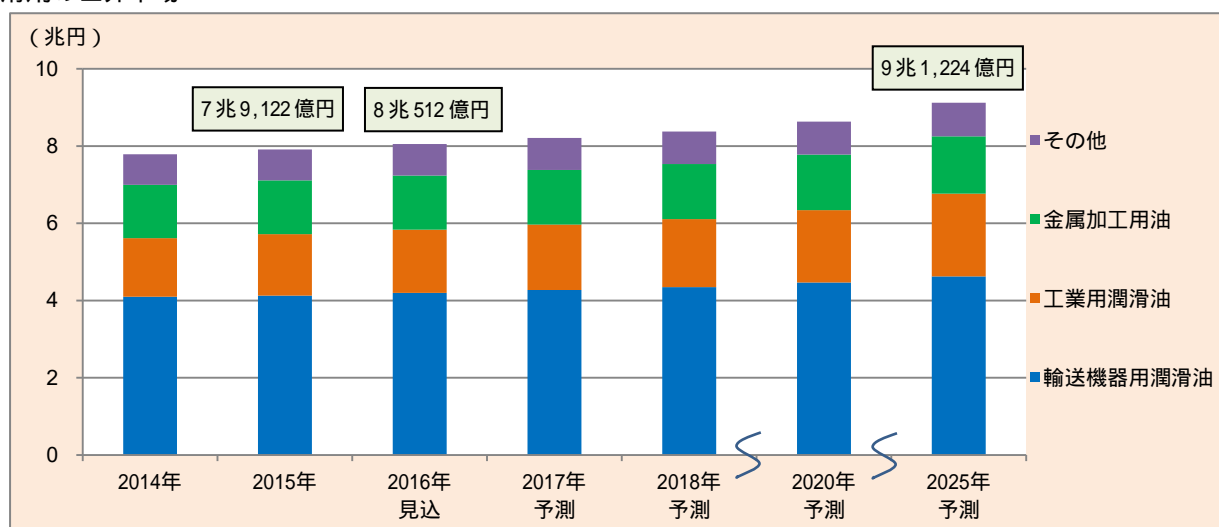
総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、潤滑剤（潤滑油、グリース）の世界市場を調査し、その結果を報告書「**潤滑剤関連市場の現状と将来展望 2016**」にまとめた。

この調査報告書では市場が極めてクローズドで全貌の把握が困難であった潤滑剤20品目、加えて応用製品11品目の市場について現状を把握し、将来を予測すると共に、機能性のキーマテリアルである添加剤の使用状況および要求特性を明らかにすることにより、潤滑剤のさらなる高機能化に向けた動きを探った。

潤滑剤は、自動車、船舶、航空機、陸運、各種産業機械など使用シーンは幅広く、それぞれの用途や需要家によって求められる性能、果たす役割が大きく異なっている。製油業界や石油化学産業を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、参入事業者の新たな高収益軸として重要性を増している。

### < 調査結果の概要 >

#### 潤滑剤の世界市場



2015年の市場は7兆9,122億円となった。50%以上を占める輸送機器用潤滑油は、ガソリン車用エンジン油（オイル）とディーゼル車用エンジン油（オイル）の構成比が高い。自動車の生産台数の伸びにより乗用車やトラック・バス、二輪車の初充填（工場充填）が増えていると共に、走行距離などに応じたアフターマーケットも拡大している。自動車関連産業は裾野が広いいため、輸送機器用潤滑油だけでなく工業用潤滑油、金属加工用油の市場にも影響を与えている。

工業用潤滑油はアジア（韓国、台湾、東南アジア、中央アジア、南アジア）の産業発展などにより、高い伸長率が期待される分野である。品目別では建設機械用やその他用の油圧作動油が工業用潤滑油の30%弱を占めている。

ただし、建設機械用は中国の旺盛な建設需要により高い伸びを続けてきたが、中国経済の減速に伴い鈍化している。一方、工業用ギヤ油は風力発電機用の需要増を背景に急成長が予想される。

切削加工油や塑性加工油などの金属加工用油は、中国やアジアで需要が増えており、輸送機器用潤滑油や工業用潤滑油ほどの大幅な伸びは難しいものの、自動車産業には欠かせない製品であり、緩やかな市場拡大が予想される。

グリース/固体潤滑剤は要求性能の高度化や使用環境の苛酷さが顕著になってきており、高機能、高付加価値製品の需要が増えている。高い技術力が求められるため、参入メーカーの研究開発動向が注目される。

地域別では中国の需要が大きい。自動車生産・保有台数が多いため輸送機器用潤滑油の使用が多いのに加え、建設機械用の油圧作動油や工業用ギヤ油などの工業用潤滑油の構成比も高い。

アメリカは自動車の保有台数が多く、国土が広いこと、輸送機器用潤滑油の構成比が大きい。

欧州は世界有数の寄港地であるアムステルダムで船舶用エンジン油の需要が多いことや、自動車の保有台数が多いことから、輸送用潤滑油の構成比が高い。

日本はガソリン車販売台数の減少や工場の海外移転などにより、今後の大きな伸びは期待しにくい状況である。

アジア（韓国、台湾、東南アジア、中央アジア、南アジア）は輸送機器用潤滑油を中心に市場が拡大している。自動車や建設機械、家電製品などの生産拠点が移っていることから、潤滑剤メーカーは拠点拡充、現地生産拠点の新設などの動きを本格化している。工業用潤滑油や金属加工油が伸びている。また、中南米のメキシコは自動車産業が盛んなため、輸送用潤滑油の構成比が高まっている。

#### <注目市場>

##### ガソリン車用エンジン油（オイル）

	2016年見込	2025年予測	2015年比
数量	543万KL	584万KL	109.8%
金額	1兆8,496億円	1兆9,888億円	109.7%

ガソリン車（自動車、二輪車）用エンジンオイルを対象とする。潤滑剤の中では添加剤の添加量が最も多い製品である。添加剤としては、清浄分散剤やさび止め剤、エンジン油の劣化を抑制する酸化防止剤や消泡剤、低燃費化のため粘度指数向上剤や流動点降下剤、また、エンジンの保護に必要な潤滑性維持のため油性向上剤や摩耗防止剤、摩擦調整剤が使用されている。ILSAC（潤滑油国際標準化認証委員会）やAPI（アメリカ石油協会）などの規格準拠が重要な製品であり、省燃費化に対応するための低粘度化と各種性能を両立する添加剤が求められている。

近年、中国を中心としたアジアで乗用車の需要が増えており、今後も継続的な市場拡大が期待される。2015年の市場は自動車販売台数の増加により数量・金額ともに前年比で微増となった。2016年は数量・金額で前年比2%程度の伸びが見込まれる。長期的にはEVやFCVといったエンジン油を必要としない車種の普及が予想されるものの、当面は普及台数が小規模にとどまるため、2025年まではガソリン車用エンジン油（オイル）の市場を圧迫するには至らないとみられる。

##### 工業用ギヤ油

	2016年見込	2025年予測	2015年比
数量	56万KL	68万KL	123.6%
金額	5,398億円	8,797億円	171.4%

高負荷ギヤに使用される工業用ギヤ油を対象とする。添加剤はSP（硫黄・リン）系の極圧剤や、耐ピッチング性向上による歯面損傷対策や省エネルギー対策として有機モリブデン系も使用されている。

市場は数量ベースで50万KL（キロリットル）前後で推移してきた。近年は風力発電機用の需要が増えており、単価が高い合成油系が使用されているため、金額ベースで大きく伸びている。今後、アジアの旺盛な需要と欧州の風力発電機用の需要が下支えするとみられ、市場拡大が予想される。また、風力発電機用の需要増加により金額ベースの伸びが大きくなるとみられる。

日本市場は、製鉄所の圧延機減速機用などの需要が工場の海外移転に伴い減少するものの、単価の高い風力発電機用が伸びるため金額ベースでは拡大が期待される。

#### グリース/固体潤滑剤

	2016年見込	2025年予測	2015年比
数量	124万トン	131万トン	107.4%
金額	4,531億円	4,780億円	107.0%

基油に増ちょう剤を分散させ機能性に依じて添加剤を付与した半固体状または固体状の潤滑剤であるグリース、固体潤滑剤を配合したグリースを対象とする。添加剤はグリースの物理的、化学的性能を改善し向上させるためにさび止め剤、酸化防止剤、油性向上剤、摩耗防止剤などが使われる。

2015年の市場は数量ベースで122万トンとなった。近年は主な用途である自動車、建設機械などの主要な需要・生産地である中国、東南アジアの需要が増加しており、今後も数量ベースは緩やかな伸びが予想される。自動車用などの高機能化によって単価は上昇傾向にあるものの、高機能製品の用途は限定的なため、金額ベースも微増で推移するとみられる。

#### <調査対象>

潤滑剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリン車用エンジン油(オイル)</li> <li>・ディーゼル車用エンジン油(オイル)</li> <li>・車両用駆動系油</li> <li>・その他車両用潤滑油</li> <li>・船舶用エンジン油</li> <li>・航空機用エンジン油</li> <li>・発電機用エンジン油</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・油圧作動油(建設機械用)</li> <li>・油圧作動油(その他用)</li> <li>・工業用ギヤ油</li> <li>・タービン油</li> <li>・コンプレッサー油</li> <li>・冷凍機用油</li> <li>・汎用油/多目的油</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品機械用潤滑剤</li> <li>・切削加工油</li> <li>・塑性加工油</li> <li>・その他金属加工用油</li> <li>・電気絶縁油</li> <li>・グリース/固体潤滑剤</li> </ul>
応用製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗用車</li> <li>・二輪車</li> <li>・トラック・バス</li> <li>・船舶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空機</li> <li>・建設機械</li> <li>・農業機械</li> <li>・風力発電</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電用タービン</li> <li>・工作機械</li> <li>・冷凍機(空調機/産業用冷凍機)</li> </ul>

#### <調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

#### <調査期間>

2016年6月～8月

以上

#### 資料タイトル：「潤滑剤関連市場の現状と将来展望 2016」

体 裁：A4判 258頁

価 格：書籍版 180,000円+税

PDF/データ版 190,000円+税

書籍版・PDF/データ版セット 210,000円+税

書籍版・ネットワークパッケージ版セット 360,000円+税

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通

TEL：03-3664-5811(代) FAX：03-3661-0165

URL：<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

e-mail：[info@fuji-keizai.co.jp](mailto:info@fuji-keizai.co.jp)

調 査・編 集：東京マーケティング本部 第四部

TEL：03-3664-5821

FAX：03-3661-9514

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL：<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>